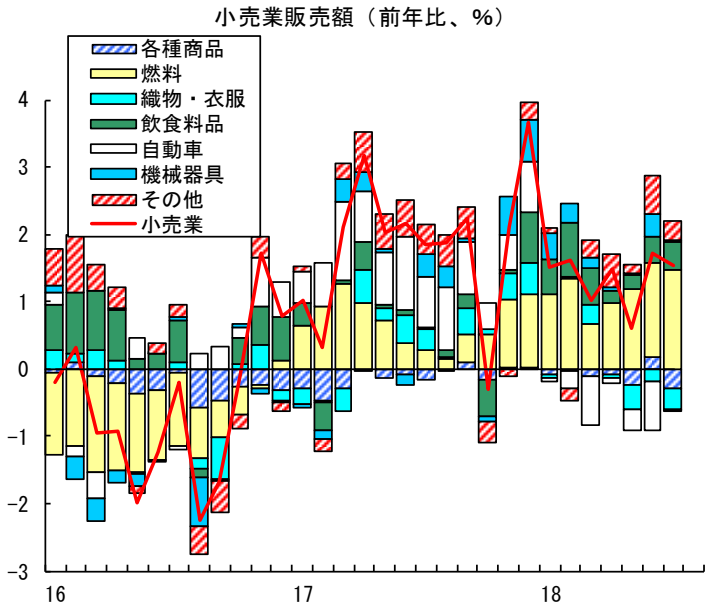
Economic Indicators

発表日:2018 年 8 月 30 日(木)

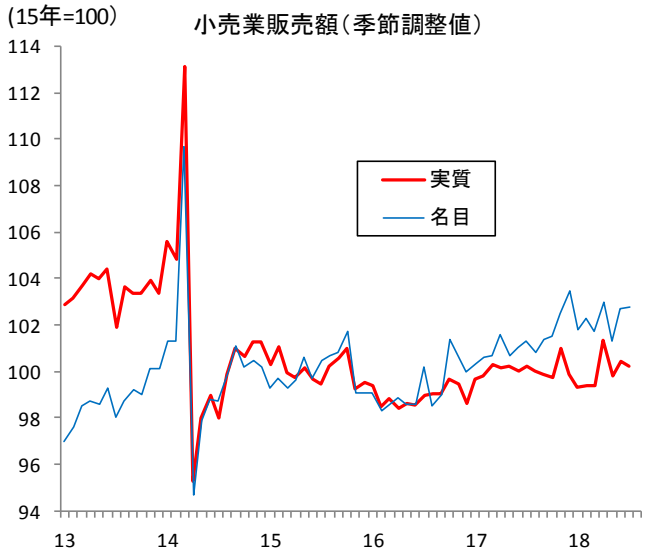
小売業販売額(2018 年7月)

～名目では微増も実質では小幅減少。7-9月期の個人消費はマイナスか～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主席エコノミスト 新家 義貴(TEL:03-5221-4528)



(出所)経済産業省「商業動態統計」



(出所)経済産業省「商業動態統計」
(注)実質化及び実質値の季節調整は第一生命経済研究所

○実質値でみれば、７月の水準は４-６月期を下回る

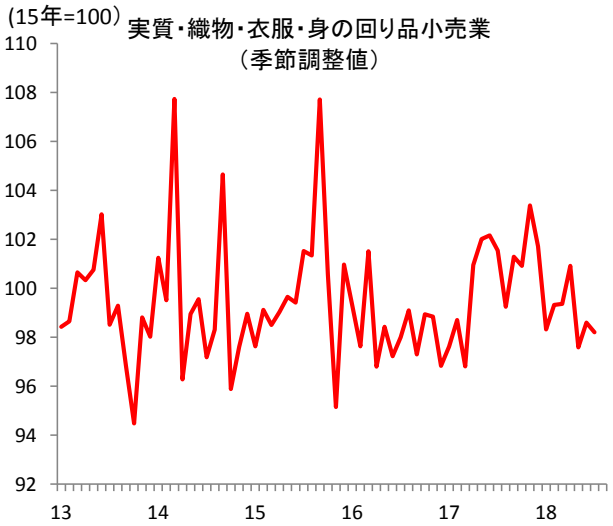
経済産業省から公表された７月の小売業販売額は前年比＋1.5%となった。前月の＋1.7%からはやや鈍化したが、事前の市場予想（＋1.2%）はやや上回っている。また、季節調整済み前月比では＋0.1%と微増である。業種別（季節調整値）では、百貨店等が含まれる各種商品小売業が前月比▲3.3%と大きく落ち込んだ一方、自動車小売業（前月比＋4.0%）や飲食料品小売業（前月比＋1.1%）、燃料小売業（前月比＋1.9%）などが押し上げ要因となっている。この結果、７月の水準（季節調整値）は４-６月期を 0.5%Pt 上回ることになった。

もっとも小売業販売額は名目で示されていることに注意が必要である。野菜価格が上昇したことで今月は名目値が押し上げられているため、実質で見た方が良いだろう。そこで、価格変動の影響を考慮した実質値（実質化と季節調整は筆者）でみると前月比▲0.2%と小幅ながら減少しており、７月の水準も４-６月期を 0.3%Pt 下回る形になる。筆者が想定していたよりは上振れたが、それでも７月の小売業販売額は弱めであることに変わりはない。７-９月期のスタートとしては低調なものにとどまったといえるだろう。７月は上旬の西日本豪雨に加え、月末には台風 12 号が上陸するなど異常気象による悪影響が大きかった。また、期待された猛暑効果についても、一部の夏物消費の押し上げには繋がった一方で、気温の上昇が行き過ぎたことで外出が手控えられた面もあり、善悪は微妙だったようだ。なお、７月の業種別（実質値）では、各種商品小売業（前月比▲3.1%）と自動車小売業（前月比＋

1.9%）の強さは名目と同様だが、飲食料品小売業（前月比▲0.1%）は野菜価格上昇の分、名目よりも弱い数字となっている。

○ 7－9月期の個人消費は下振れか

なお、小売業販売額の対象は財のみであり、サービス消費は含まれない。前述のとおり７月の小売業販売額は異常気象の悪影響でやや弱い結果となったが、異常気象によって消費者の外出が手控えられたことは、財消費以上にサービス消費への悪影響が大きいものと考えられる。サービス消費を含めた消費全体では、より弱い結果になる可能性が高いだろう。加えて、８月についても台風等による天候不順による下押しが懸念されることに加え、野菜価格の上昇が消費に悪影響を与える可能性もある。４－６月期については個人消費が高い伸びとなってＧＤＰ成長率を押し上げたが、７－９月期は前期比でマイナスに転じる可能性が高いと予想している。



（出所）経済産業省「商業動態統計」

（注）実質化及び実質値の季節調整は第一生命経済研究所

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。